

集落協定 かわら版 (第36号)

(平成24年3月16日 山口県農業経営課)

法人を中心とした活動をしている協定です!



伊陸西部集落協定
面積 43.9ha
うち田 43.1ha、畑 0.8ha
参加者 農業者 27人、
特定農業法人 1
交付金 3,906千円
共同取組活動 50%

「山口県中山間地域等直接支払制度検討会」(県の第三者委員会)の委員である山口県連合青年団の金子嵩史さんが、柳井市伊陸の伊陸西部集落協定取材しました。



今やらねば 何時できる
俺がやらねば 誰がやる

・・・柳井市伊陸・伊陸西部
(いかちせいふ)集落協定・・・

今回は、柳井市伊陸の伊陸西部集落協定にお邪魔しました。

協定代表の村岡信保さん(83歳)、協定役員の山近芳雄さん(64歳)、半田博昭さん(75歳)、藤本幸一さん(62歳)の4名の方にお話を聞きました。

四角囲いの中の言葉は、法人事務所に貼ってあったものです。協定の想いが伝わる言葉でしたので、紹介させていただきました。

協定の概要について教えて下さい。
当集落協定は、ほ場整備等を契機に第2期対策の平成17年度から4地区合同で活動を始めています。

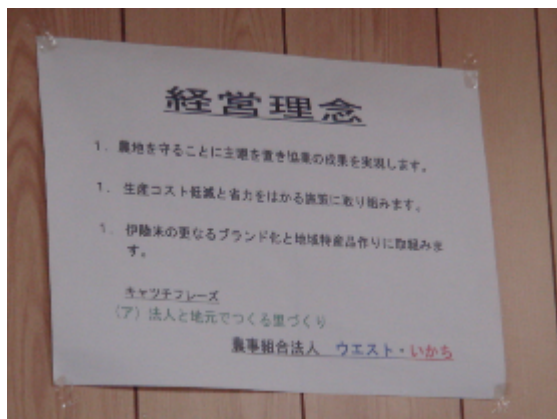
現在の協定参加者は、農業者27名と1特定農業法人となっています。

協定役員に3名の女性を登用するなど、様々な意見を取り入れながら協定の運営をするように心掛けています。

協定活動の中心は、「農事組合法人ウエスト・いかち」です。当法人は、「**農地を守る**」ことに主眼を置いて活動しており、現在の農地集積率は81%

になっています。

最終目標は、法人への**農地集積率100%**です。



< 法人の経営理念 >

共同取組活動の用途を教えてください。

主には、籾摺機や草刈機等の共同機械の購入です。他は、鳥獣被害防止対策やわな免許の取得等に活用しています。

また、パソコンやデジタルカメラを購入し、会計処理等の効率化、活動記録の保存・情報発信に努めています。

鳥獣被害防止対策について、お聞きします。

電気柵とトタン柵での対応がほとんどですが、わなにも力を入れています。

わな設置箇所点検は、毎日、行うようにし、わなを効果的に活用できるよう、設置箇所やエサの研究を行っています。

わなでの年間捕獲数は、イノシシ 10頭程度です。

去年は、わな 1 箇所、イノシシが 5 頭捕獲できるなど、徐々に効果が現れていると思います。



農地法面、農道、水路の管理は、どのようにされていますか？

協定を、基盤整備地区ごとに 4 つに分け、それぞれに責任者（世話役）を決めています。

その者の号令のもと、農道の草刈りなど、共同取組活動を実施しています。

地区ごとにバラツキが生じてしまうのでは？

そのようなことはありません。

隣がきれいに管理していれば、その隣も自然ときれいになる。その繰り返しです。

法人の基本理念の中に、「協業」という言葉があります。これは、お互いに助け合い、皆で集落や農地を守っていきましょうという意味です。

集落を守っていくためには、そこに住んでいる者だけの都合を考えているだけではダメですから、土日に、共同取組活動を行うなど、そこに住んでいない若者も参加しやすい環境づくりをしています。

中山間地域等直接支払制度が集落に及ぼす影響は？

毎年、共同作業を数回行うが、集落

の全員が顔を出してくれます。

また、遠方にいる人も帰って来て、作業を手伝ってくれたり、集落のコミュニケーションの維持に非常に役立っています。

中山間地域等直接支払制度があるから、共同取組活動が、スムーズにできるようになりました。

今では、この集落になくってはならない制度です。



< 協定風景 >

話は変わりますが、農事組合法人ウエスト・いかちについて教えてください。

平成 18 年 4 月、4 つの地区の農業者の出資により設立された法人です。

86 名の組合員がおり、県内でも大きい法人だと思います。

伊陸にある農地をしっかりと守ることが法人の役目だと考えています。5 年後、法人への農地集積率を 100% にすることが目標です。

我が法人は、人材が豊富であり、適材適所の配置が可能で、皆が活躍しやすい環境が整っているため、目標は達成できると信じています。

主要な作物は、水稲、大豆、タマネギ、キャベツで、エコ 50 米も作ってい

ます。エコ 50 米は、四つ葉グループにお願いし、青空市場で販売してもらっています。四つ葉グループとは、組合員の女性 11 名で構成され、主に加工品の販売や野菜栽培を行うグループです。先日開催したキャベツ祭は、大盛況でした。



< 青空市場販売物 >

昨年、BSC に取組み、過去 5 年間の反省と今後 5 年間のあり方について話し合いを行いました。

ホームページの立ち上げ、加工所・直売所の設置等を行い、法人と四つ葉グループがより協力して、地域特産品作りを推進し、集落を盛り上げていくことを確認しました。

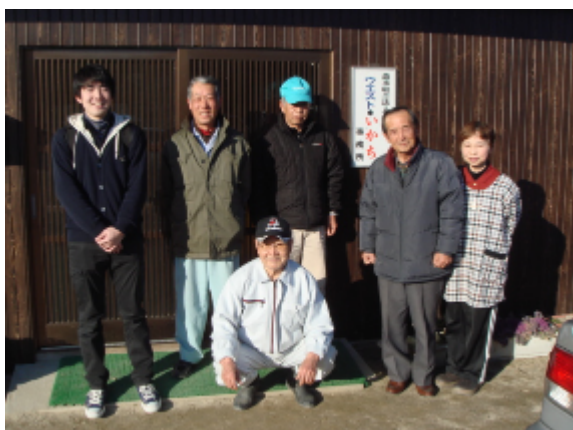
最後に、協定・法人の代表としての想いを聞かせて下さい。

失敗を恐れず、いろいろなことに挑戦していきたいです。

これまで実施していない外部との交流も取り入れていきたいです。そうすることで、この集落はもっともっと盛り上がっていくと思います。

「今やらねば、何時できる！俺がやらねば、誰がやる！」の精神で、今後

も取り組んでいきたいです。



金子委員(一番左)と協定の皆さん

～取材を終えて～

山口県連合青年団 金子嵩史

委員として初めての取材ですが、実家が農家ということもあり、どのような取組が行われているのか、興味を持ちながら取材することができました。

この協定の中心は、「農事組合法人ウエスト・いかち」です。法人では、米や大豆などの耕作の他、年に数回の草刈りや鳥獣被害対策、加工品の販売の手伝いなど、様々な取組を行っています。法人の取組の多様さに驚くとともに、非常に感心しました。中でも、個人の能力に応じた役割分担を行っていることや、自らが率先して行動すること、共同作業には、集落全員が参加し、必ず顔を合わせることが印象に残っています。このことは、集落内の士気の高揚、連携強化に役立っていると思えました。

今後の取組として、情報発信の強化が大切だと思います。ホームページの開設、学生向けの見学、体験、実習の受け入れなど、外との連携を図っていくことが重要だと思います。相手を招く、又は、自分から出向き顔を合わせ話をする。そうすることで、人と人との関わりができてコミュニティも広がり、一つの活動や取組にも繋がっていくと思います。

今回、取材に行かせていただき、改めて人との関わり、自らやっていくという意志が大切だと学ぶことが出来ました。実りある取材でした。

★★★★★ 編集後記 ★★★★★

協定の皆さんから、農業だけでなく、集落の維持・発展への強い想いを聞くことができました。

中山間地域等直接支払制度の趣旨を踏まえた活動が行われており、大変感動しました。今後の更なる活躍を期待しています。

取材では大変お世話になり、どうもありがとうございました。

★★★★★ お知らせ ★★★★★

集落協定かわら版バックナンバー
<http://www.pref.yamaguchi.lg.jp/cms/a17200/chiikiagri/otasukeriryoushu.html>

山口県農業経営課 中野・石川
電話：083-933-3350

★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★